ほら、
よこはま は
あったかい

福祉よこはま

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

市民活動・ボランティア活動情報誌

2014年
3月14日
No.171

青葉区の横浜市たまプラーザ地域ケアプラザで行われている
子育て支援イベントプログラム「どにち★ひろば」（2014年2月9日撮影）
→詳しくは特集1で

特集1 企業＋地域ケアプラザの新しい子育て支援…2,3

特集2 よこはま笑顔プラン…4,5

目次

リレートーク……5
福祉の仕事……6
Let's try ボランティア……7
ボラセン情報……8
市社協情報……9
オススメDVD……9
みんなのきもち　ありがとう
寄付者、賛助会員のご紹介…10
福祉Q&A……11
福よこクイズ……11

「福祉よこはま」は、一部共同募金
配分金を活用して発行しています。

「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています。

特集1

企業＋地域ケアプラザの新しい子育て支援

人・企業・行政とのつながりで見えてくる、地域ケアプラザの可能性

子育て支援イベントプログラム「どにち★ひろば」（以下、ひろば）は、青葉区と企業５社の公民連携事業。会場の横浜市たまプラーザ地域ケアプラザ（以下、地域ケアプラザ）には土曜日、日曜日にも子育て中のパパ・ママが訪れるようになりました。福祉保健の情報提供や相談、世代交流などの場として、身近な地域ケアプラザを通じて地域の人と社会貢献に積極的な姿勢をもつ企業、行政の接点がひろがっています。

どにち★ひろば

2013年、新たな子育て支援サービスを地域の人たちへ提供するため、青葉区と民間企業の協働から生まれました。横浜市の公民連携の仕組み「共創フロント」を活用して5社が参画。地域ケアプラザに設けた会場で、子ども向けのイベントプログラムを、参加費無料*で、毎週土日**に実施しています。
詳しい内容や参加の申し込みは、青葉区のホームページから
http://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/00life/04child/20130206163807.html
事業内容の問合せ▶青葉区こども家庭支援課子育て支援担当
☎045-978-2456
*実費が必要なイベントプログラムもあります。**実施されない日もあります。

共創フロントとは
横浜市が公民連携に関する様々な相談・提案をいただくために設置した窓口です。政策局共創推進課が民間と行政の橋渡し役となり調整等を行います。

参加企業とおもなプログラム★スタッフのひとこと

(株)ベネッセコーポレーション
～えいごでおやこ遊びなど～
英語はこれからの時代に欠かせないコミュニケーションツール、と考える世代の子育て観に少しでも応えることができればと思います。

和光堂(株)　～離乳食セミナーなど～
離乳食に関連するプログラムには、お子さんとご両親、祖父母など地域のあらゆる世代の参加があり、地域ケアプラザが交流拠点であるという考えにマッチするのではと考えています。

FAMILIE
～ファミリエおはなし会(読み聞かせ)など～
行政との協働を通じて、たまプラーザなど地元の人たちとのつながりを太くしたい。ふらっと来て楽しんでいただければうれしいです。

(株)ダッドウェイ　～ファミリーフォトセッションなど～
いまの家族のニーズに応えるプログラムを通じて、赤ちゃんの成長を実感してほしいです。また成長後の振りかえりの機会をつくる新しい子育て支援だと思っています。

(株)キンダーナーサリー
～親子ふれあい遊びなど～
普段の保育園でのカリキュラムを提供することで、プレ入園としての体験につながり、子育て支援の一環として地域社会への貢献ができればと考えています。

横浜市たまプラーザ地域ケアプラザ

地域ケアプラザ利用の「はじめの一歩」に

パパ・ママ・子どもにとって、ひろばへの参加が地域ケアプラザ利用のはじめの一歩になっているな、と感じます。男性利用者を増やすために、ひろばへ来たパパには「仕事帰りにプラっと、ぶらっと寄ってください」と声をかけます。乳児から高齢者まで誰でも使える地域ケアプラザを強く意識して「家族ぐるみで出かけられる地域ケアプラザ」を目指しており、企業参加によるプログラム提供は、地域ケアプラザを広報するうえで効果的だと思います。

横浜市たまプラーザ地域ケアプラザ
所長　田中ひろみさん
地域活動・交流コーディネーター
横井礼子さん

プログラムを利用した人たちの声

- いつも公園で遊ぶというわけにはいかないので、ひろばは助かる
  - 「土日はお父さんと遊ぶ」といった習慣につながる
- お父さん限定のプログラムがあってもいい
  - パパと子どもに参加してもらい、自分の時間を確保している
- 参加しているほかの家族の様子が分かるのがいい
  - 平日働いているため、土日開催はうれしい
- 母娘孫の三世代で参加、来て良かった

区役所や地域の人たちによる「子育てひろば」「育児教室」、週3日は「おやこあそび場開放」が行われています。
月曜日～土曜日　9:00～21:00(日曜日・祝日は～17:00)
毎月第4月曜日と年末年始は休館
☎045-910-5211　FAX045-910-5231

「小中学校、自治会町内会の防災パトロール、警察署などへ職員が出向くときには、地域情報をキャッチしてくる姿勢を大事にしています」という田中さんと横井さん。駅直結の立地の良さもアピールしていました

行政担当者も手ごたえを感じています

地域ケアプラザの子育て支援事業は平日に実施されることが多いため、ひろばは「土日に家族で、気軽に出かけていける場」として定着しつつあると思います。25年3月に事業がスタートし、26年1月までの11か月で133プログラムに1000組超・2700人近いパパ・ママ・子どもが参加しました。利用者、地域ケアプラザや企業の声などを参考にしたプログラムの充実が進むことを期待したいと思います。

青葉区こども家庭支援課 子育て支援担当係長 倉田力さん

ますます重要に～地域ケアプラザの役割

子育て中の家族をはじめ、多くの人が利用する地域ケアプラザにしたい…ひろば事業は、この課題を企業の力で解決しようとする試みのひとつです。地域も企業も巻き込む地域ケアプラザのコーディネート力が充実していくことで、地域のさまざまなニーズに応え、いろいろな世代が集まる場として地域ケアプラザは知られていくでしょう。

特集2

誰もが安心して
自分らしく健やかに暮らせる
「よこはま」をみんなでつくろう

よこはま笑顔プラン

「地域福祉保健計画」と「地域福祉活動計画」を一体的に策定・推進します。

横浜市の地域福祉保健計画とは、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりを目指し、住民、事業者、公的機関（行政・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が福祉保健などの地域の課題解決に協働して取り組み、身近な地域の支えあいの仕組みづくりを進めることを目的として、策定・推進するものです。

横浜市地域福祉保健計画（横浜市）と横浜市地域福祉活動計画（横浜市社協）は、いずれも地域福祉保健を推進するための計画であり、相互に補完し、連携・役割分担し総合的に推進するものであるため、第3期から一体的に策定・推進を行います。

よこはま笑顔プラン

この愛称については、市民からの公募案について策定・推進委員会で検討し、「地域福祉保健活動に市民が楽しみながら参加し、多くの人々との協働の取組を進めることでたくさんの人々が出会い、つながり合い、そのことを通して横浜市全体にたくさんの笑顔が満ちあふれていくように計画を推進していこう」という思いをこめて決定しました。

	よこはま笑顔プラン	区計画	
	市計画	区（全体）計画	地区別計画
位置づけ	基本理念と方向性を提示し、区計画推進を支援する計画	区の特性に応じた、区民に身近な中心的計画	地区の課題に対応するため、地区が主体となり、区・区社協・地域ケアプラザと協働して策定する計画

みなさんに身近な計画として地区別計画があり、地区別計画で解決困難な地域課題を解決するために、区計画や「よこはま笑顔プラン」があります。

新しい地区別計画の策定（平成28年度）に向けて、「よこはま笑顔プラン」が目指す地域社会を実現していくため、多くの市民や関係機関・団体のみなさんのご参画・ご協力をお願いいたします。

基本理念　誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる「よこはま」をみんなでつくろう

基本理念実現のための＜重要な視点＞

① 住民主体と協働による地域福祉保健の推進
② 誰もが自分らしく地域で暮らし、共に支えあう社会
③ 自助の力を高める「一人ひとりの健康」を大事にしながら、誰もが健康にすごせる社会

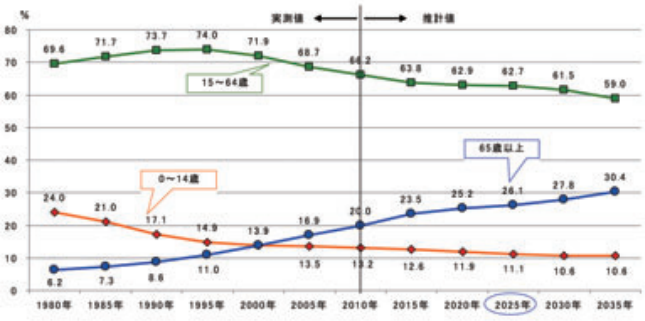
基本理念の実現に向けた取組

＜総合目標＞
① 人と人とのつながりを地域資源の一つとして積み重ねていく意義の浸透
② 自助・共助・公助の組み合わせによる誰もが健やかで安心して生活できる地域づくり
③ 幅広い市民参加を重視した地域社会全体の活力向上

横浜市の現状

少子高齢化の進展と世帯構成の変化　〈2025年には４人に１人が高齢者〉

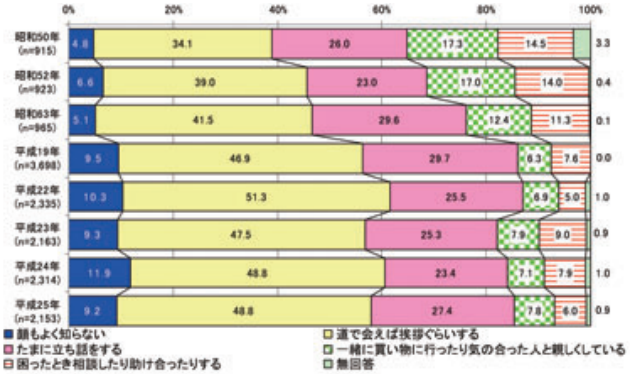
◦横浜市の少子高齢化は急速に進展し、平成37年（2025年）には市内人口の26.1%、4人に１人以上が65歳以上の高齢者となることが見込まれています。そして、単独世帯は年々増加し、一世帯あたりの人数は減少する傾向にあります。



出典）2010年までは国勢調査、2015年以降は『横浜市の将来人口推計』

地域の人間関係　〈互いに助け合う関係が減少傾向〉

◦隣近所とのつきあい方で、「気のあった人と親しくしている」、「困ったときに相談したり助け合ったりする」の割合は、多少の増減があるものの昭和63年度以降減少傾向にあります。



出典）横浜市民意識調査　（横浜市政策局）

第3期 横浜市地域福祉保健計画　計画期間:平成26年度～30年度

3つの「推進の柱」の主要な取組

推進の柱 1

地域住民が主役となり地域課題に取り組むための基盤をつくる

主要な取組

地区別計画の取組を更に推進する体制・方法を示します。

○地区別計画推進の仕組みや住民主体の取組を推進する体制・目標の明確化
○現状分析を踏まえた重点的支援が必要な地域の焦点化、効果的な取組推進
○地域の取組を支え、地域では解決できない課題を解決する、区域の取組推進の支援

推進の柱 2

支援を必要とする人が的確に支援へつながる仕組みをつくる

主要な取組

身近な地域における課題の早期発見・共助の仕組みの連動を強化します。

○自助・共助・公助の組み合わせによる、支援が届かず様々な生活課題を抱えている人に気付き、支える仕組みの強化
○個別課題を地域課題につなげ、身近な地域で生活課題を把握・調整・解決し、区域や市域の取組に反映させる仕組みづくり
○健康づくり・保健の取組を活用した自助・共助の充実
○地域拠点である地域ケアプラザが中核的な役割を担うための人材育成等の推進

推進の柱 3

幅広い市民参加から地域福祉保健の取組が広がる仕掛けをつくる

主要な取組

学校、企業等の様々な主体と連携し、対象層を明確にしながら、市民参加の働きかけを強化します。

○子どもや若年世代・高齢者・障害者等を含むすべての人を対象に、つながりや支え合い、さまざまな活動に参加することの啓発の実施
（小・中学校におけるつながりづくりや地域理解の啓発の推進等）
○高齢者が健康づくりに努めながら、意欲と能力が発揮できる「場」と「出番」づくり
○企業やNPO法人・社会福祉施設等、様々な主体との連携と活動への参加の促進

リレートーク

福祉って
ここがおもしろい
ここがむずかしい

横浜市民の自信につながる地域福祉保健計画

横浜市地域福祉保健計画
策定・推進委員会委員長職務代理者
名和田 是彦

コミュニティ政策を研究している研究者としてこのほど10年の間、横浜市の地域福祉保健計画の策定と推進に関わらせていただいている。

福祉の世界でよく言われる「小地域」での諸活動を連携させる仕組みが、近年「都市内分権」とよばれて各自治体で多様に取り組まれている。横浜市では、地域福祉保健計画の地区別計画がこの機能を果たしていることに特に注目して関わってきた。

地区別計画がいわば培養土となって、さまざまなコミュニティ活動に展開しているのは、横浜市の地域活動の新しい発展の様相として注目すべきである。ユニークなハード整備の提案事業である「ヨコハマ市民まち普請事業」にも地域福祉保健計画で育まれた地域力とアイデアが多彩に登場している。エリアマネジメントや地域運営協議会の取組も、地域福祉を基軸としている。全国的にも盛んだが、横浜でも特に盛んなコミュニティ・カフェ等の交流拠点づくりも、地域福祉のサロン活動が裾野の広い基盤となっている。地域福祉保健計画が横浜の福祉と地域力をレベルアップしていることに私たち横浜市民は自信を持ちたい。

ヨコハマ市民まち普請事業とは・・・詳しくは11ページ

シリーズ⑳

福祉の仕事 〈〈〈〈 地域療育センターで活躍する理学療法士 〉〉〉〉

理学療法士（PT）とは

理学療法士（Physical Therapist,PTともいいます）とは、ケガや病気などにより身体に障害のある人や障害が発生しそうな人に対して、自立した日常生活が送れるように支援するリハビリテーションの専門職です。寝返る、起き上がる、立ち上がる、歩くなど生活の基本となる動作の改善・維持、悪化の予防を目的に運動療法（関節の動きを良くする、筋力を回復する、生活動作の練習）や物理療法（温熱や電気など物理的な刺激）などを行います。

横浜市南部地域療育センターに勤める理学療法士

齋藤 英博 さん に聞きました

※地域療育センターとは…
詳しくは11ページ

今まで出来なかったことが…

●PTになって18年と聞きました

理学療法という職種に興味を持ち、専門学校へ入学、国家資格を取り転職しました。学生の時に小児施設に実習に行き、そこでの経験から小児の理学療法士をめざし、この道に入りました。

●センターに来るお子さんお母さんと接する姿がとても柔らかです

お子さんにとって、理学療法の時間が楽しく思えるということを大切にしています。1回の理学療法の時間は40分程度ですがお子さんが遊びながら体を使うことで、今まで出来なかった事が少しでも「出来た!」「出来るんだ!」と感じてもらえるようにこころがけています。

●PTのやりがいとは

お子さんとご家族と時間を共有する中で、運動を含めた全体の発達が伸びて来たと感じる場面があります。私にとってやりがいを感じる時です。そして、ご家族にも療育センターでの時間が有意義だと感じてもらえると嬉しいです。

理学療法士になりたての頃は、お子さんの運動を早く伸ばしたくて焦っていた時期もありました。でも、信頼関係を保ちながら成長していく過程を大切にして、時間をかけることで多くのことが得られる、それがこの仕事の魅力です。

出来るようになる…その姿を見るとうれしくなります

●PTをめざす人に

理学療法を必要とするお子さんとご家族を通じて社会や地域にも目を向ける必要があります。お子さんとご家族をとおしてさまざまな人と接する機会の多い職種です。人とのかかわりの中には大変な面もありますが興味のある人は、まずは一歩踏み出してみてはどうでしょう。

一緒に働くPT ひ と こ と

18年のキャリアに若いPTは多くのことを学びます

齋藤さんはここへ来るお子さんの気持ちをつかむのがとてもうまいと思います。経験の浅い私にとってはすべてが勉強になる大先輩です。
（松尾敬子さん）

お子さんとご家族との信頼関係、専門職間での連携を大切にされています。他職種の方と情報を共有したり、アドバイスをもらうようにしています。
（尾形リナさん）

齋藤さんのある一日

療育センター内での理学療法
- 理学療法に訪れる利用者とのセッション（訓練・遊戯） 40～60分程度／一家族
- 通園クラス内での指導～食事指導など
- 専門職（医師、看護師、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー、臨床心理士、児童指導員、栄養士など）との連携、ミーティングや会議など

関係機関への出張業務
- 市・区の福祉保健施設などでの療育相談
- 医療機関や幼稚園・保育園との療育連携
- 特別支援学校への訪問・療育相談

退勤後、その他
- 自主的な研修・勉強会などへの参加
- ボランティア活動
- 地域作業所などへの理学療法巡回

横浜市内の福祉人材に関する求人情報

ウェルじゃん求人情報 http://www.yokohamashakyo.jp/willing/weljan/weljan-kyujin.html
横浜市介護人材求人情報システム http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/zinzaikakuho

Let's try ボランティア

ボランティアはやってみたいけれど、実際にはどんなことをするの？できるの？　そんなギモンにこたえるLet's try ボランティア。今回は、車いす利用者の職場～自宅までの帰宅時支援を行っている関口さん、高瀬さん、早川さん、山本さんに聞きました。

冬場はすぐに暗くなるので、歩行者や自転車に気を付けながら、ゆっくりと車いすを押しながら慎重に進む高瀬さん

障害者の通勤を支える

Aさんは身体に障害があり、車いすを利用しています。仕事場から自宅までの15分の道程には、車いすには大変な狭く緩やかな坂が続き、一見平坦な歩道や車道でも小さな凹凸で車体が振動します。車や人通りも多く、身体のすぐ横を自転車や自動車が通りすぎて行きます。街灯の少ない道のため夕方には暗く周囲が見えづらくなるので、より注意が必要です。

Aさんは自分の力で通勤すると体力消耗し仕事に支障をきたしてしまうため、毎日ヘルパーに頼んで通勤します。

しかし、曜日によってはヘルパーの調整が難しい場合があります。

そこでAさんはボランティアセンターに相談し、ヘルパーの対応が難しい日の帰宅支援をボランティアに依頼しました。

月曜日を担当する関口さん(左)と早川さん(右)

Aさんの帰宅時支援を行っている4人のボランティア。関口さん、高瀬さん、早川さん、山本さん。

4人は毎週月曜日と水曜日の依頼者の帰宅を交代で支えています。Aさんの退社時に待ち合わせ、自宅まで付き添います。活動を始めたきっかけはボランティアセンターから4人に声が掛かったこと。今もボランティアセンターが調整を担っています。

活動を始める前には

区社協や福祉のイベントで車いすの操作などを事前に体験してからボランティアを始めました。

初めて付き添った時には

緊張しました。回を重ねるにつれて依頼者と会話ができるようになっていきましたが、依頼者宅に着くまで気を抜くことはありません。

活動回数は

それぞれ月に1～2回、2～3年続けています。

帰宅時支援で心掛けていることは

- 車いすのレバーを握る感覚が大事なので、寒くても手袋はしません（高瀬さん）
- 私は歩くのが早いので、車いすを押すときにはゆっくり歩くように心がけています（山本さん）
- 信号待ちなどで車いすのストッパーをしっかりとセットし、万全を期しています（早川さん）
- いつも決まったコースを行きますが、依頼者に不安感を与えないようにしています（関口さん）

今回のように制度や有償サービスを利用しても対処できない依頼に対して、数人のボランティアが支えることで依頼者の想いに寄り添った支援ができます。みなさまの地域にも支援を待っている人がいるかもしれません。

横浜市ボランティアセンター

ボランティア活動に興味のある方はお問合わせください。

初めての方も安心！　各区でボランティア入門講座等を行っています。

中区社会福祉協議会〝はじめてボランティア〟の様子

☎045-201-8620　FAX：045-201-1620
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1　横浜市健康福祉総合センター8F
E-mail：yvc@yokohamashakyo.jp
横浜市ボランティアセンターホームページ
http://yokohamashakyo.jp/yvc/

本による寄付の新しいかたち【ヨコハマ寄付本】がスタートします

3月1日より横浜市社会福祉協議会とTSUTAYA横浜みなとみらい店は、企業の社会貢献活動として、本による寄付の新しいかたち【ヨコハマ寄付本】を開始しました。

読み終わった本の中には、市場価値があるにも関わらず、リサイクルされずにゴミとして廃棄されてしまう本が多く存在します。【ヨコハマ寄付本】は、それらの本を有効活用する目的として、従来の「募金」というかたちではなく、「読み終わった本」を通して、地域の福祉活動に参加できる新しい取組です。

事業内容

読み終わった本や雑誌等を寄付いただき、集めた本をTSUTAYA横浜みなとみらい店が査定を行い、お金にかえ、ボランティア活動を応援する「よこはま　ふれあい助成金」や横浜市社会福祉協議会が実施する「地域の福祉活動の財源」として活用させていただきます。また、寄付いただいた本の一部は、地域の福祉活動の拠点に寄贈されます。

寄付本の流れ

TSUTAYA横浜みなとみらい店へ電話
☎0120-00-7167
（電話受付10～26時）
＊ヨコハマ寄付本とお申し込みください

→ 寄付する本など物品を仕分け後、贈与承諾書を記入。
＊箱詰めは不要です。

→ TSUTAYA横浜みなとみらい店担当者がご指定の日時にダンボール持参で箱詰め&回収

→ TSUTAYA横浜みなとみらい店にて査定
査定金額を横浜市社会福祉協議会が受領。

→ 横浜市社会福祉協議会より、寄付者へ受領書の送付。

注：回収できないもの…会議資料、名簿、新聞紙、海賊版 / サンプル。
　　20点以上あれば、古い本・雑誌でも回収無料です。

鶴見区災害ボランティアシミュレーション

1月17日（金）鶴見区役所にて、鶴見区災害ボランティアシミュレーション訓練が行われました。早朝7時からの実施にもかかわらず、200名以上の方が参加され、災害ボランティアに対する関心の高さがうかがえました。

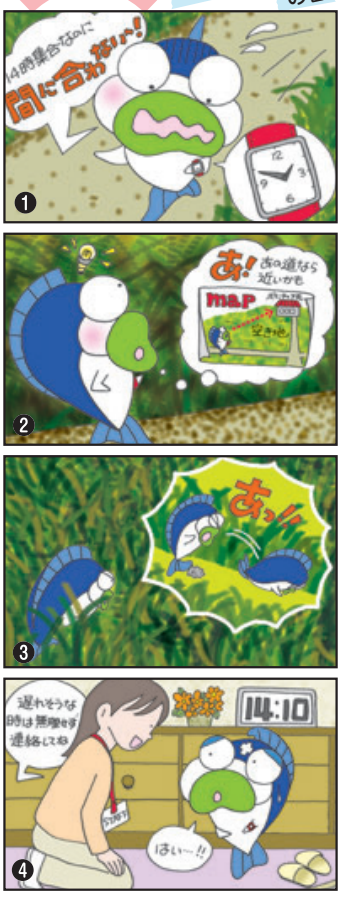
この訓練は、地震や水害といったさまざまな災害が起きた際、多くのボランティアが駆け付ける中で、ボランティアの受入と被災者からの要望を円滑に結びつけることを目的に実施されています。また、区内の地域防災拠点ではボランティアの派遣依頼や受入の訓練も実施されました。

今年で10回目を迎え、訓練方法が改善されるなどの手ごたえを感じるとともに、東日本大震災後は地域防災拠点との連携をはじめ、ますます地域とのつながりの重要性を感じるようになっています。

鶴見区災害ボランティアネットワーク・鶴見区社会福祉協議会・鶴見区役所の3者協働で実施されました。

問い合わせ先：横浜市ボランティアセンター　☎045-201-8620

ボラちゃんが行く！　急がば回れ!?の巻



イラスト：和泉直子

障害児・者のための移動に関する相談窓口 移動情報センター

移動情報センターとは

移動に困難を抱える障害者等からの相談に応じて、支援制度の案内や、サービス事業者等の紹介・コーディネートを行います。横浜市から運営を受託した市内9区の社会福祉協議会で実施されています。

相談の内容によっては面談の場を調整することもあり、丁寧な対応を心掛けています。

これまでは・・・

移動に関する情報が集約されていないことで、利用者自らが事業者等を探して問い合わせをしたり、そもそもどんなサービスを利用すれば良いのかわからない、といった状況がありました。

移動情報センターでは・・・

相談に応じ、移動に関する支援制度の案内やサービス事業所等の紹介・コーディネートを行います。紹介する内容は、公的サービスだけでなく、タクシー事業者や地域のボランティアなど、移動に関する情報全般です。

制度外の対応やボランティアの調整・紹介、関係機関との調整など、どのような場面でも相談された方がより良い方法を選択出来るように心がけています。

事業者連絡会は普段顔を合わせる機会の少ない事業者同士の情報共有など貴重な場となっています。

窓口対応の一例

- 特別支援学校への通学や日中活動先への通所の際の付き添いの手段について
- 地域のボランティアに関して
- 事業者の利用にかかる費用について　　など

【付き添い体験の様子】当事者団体と協力してボランティア講座を開催。人数や開催方法などは実施する地域に応じた工夫をしています。

名　称	連絡先	
	TEL	FAX
でかけYO!神奈川（神奈川区移動情報センター）	311-2678	313-2420
中区移動情報センター	681-6682	641-6078
南区移動情報センター	250-5260	251-3264
保土ケ谷区移動情報センター	332-2479	334-5805
移動情報センターあさひ	392-1124	392-0222
金沢区移動情報センター	786-8034	784-9011
おでかけGO!港北（港北区移動情報センター）	543-1947	531-9561
緑区移動情報センター	931-3280	934-4355
戸塚区移動情報センター	862-5091	862-5890

市内在住の方であれば上記のどちらにでもご相談いただくことが可能です。
相談受付：月曜～金曜日　9時～17時（土・日・祝・年末年始を除く）

その他にも・・・

地域に向けたボランティア講座や障害者の移動に関する啓発活動を行ったり、実際の移動支援の担い手である事業者同士の連絡会を開催したりと、人材の育成や地域へのはたらきかけといった社会福祉協議会ならではの取組も積極的に行っています。

移動は目的やその手段を問わず、日々の生活のあらゆる場面に関わるものです。障害のある方が個々の状況に応じて快適に外出するためにも、ぜひ移動情報センターの窓口にご相談ください。

オススメ DVD

『遺体 ～明日への十日間』

3年前、東日本大震災。

次々と遺体が運ばれてくる中学校の体育館で、民生委員の相葉常夫（西田敏行）は、生きていた時と同じように遺体に話しかけます。「話しかけるとご遺体の様子が変わるんです」という言葉に、動揺する家族や疲れ果てた職員の心も変わっていきます。

困難な状況にあっても、人としての尊厳を守ろうとする姿は、震災から3年を経た今でも忘れてはいけない。

原作はジャーナリスト・石井光太氏の著書「遺体　震災、津波の果てに」（新潮社刊）。

2013年/日本/105分
監督：君塚良一
配給：フジテレビジョン

みんなのきもち ありがとう

みなさまから寄せられたご寄付は、
市内の市民活動団体、障害児・者団体の支援のため、
有効に活用させていただきます。

こんな活動に役立てられています！

よこはまふれあい助成金<重点計画3>

NPO法人 夢・コミュニティ・ネットワーク

地域で取り組む 発達障がいプロジェクト いそごキャラバン

外見からはわかりにくい発達障害について、多くの人に知るきっかけを提供し、地域の理解者を増やしていくことを目的として活動しています。

助成金を活用した発達障害に理解のある地域の味方を増やすためのサポーター養成講座や発達障害の子どもによく見られる行動特徴を寸劇や疑似体験で伝える出前講座などを実施しています。

障害施設の職員や地域のボランティアなど17人のメンバーは「だれもがわかりやすい、楽しいプログラム」を提供できるようミーティングを重ね、出前講座の内容を検討しています。

メンバーは、「発達障害のある人には、その人に配慮した環境や接し方が必要です。地域の人たちへ伝えていく難しさはあるが、誰もが自分らしく暮らせる地域になるように取り組んでいきたいです」と話していました。

助成金を活用した取組によって「発達障がいサポーター」が増えることで地域に理解者が広がることを期待します。

詳しい取組内容は、事務局までお問い合わせください

NPO法人夢コミネット
担当：坂本
☎&FAX：045-353-5051
E-mail：info@yumecomi.net

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略
平成25年10月1日～平成25年12月31日分

善意銀行　金銭寄付者
- 日本大学高等学校・中学校生徒会
- 横浜市女性団体連絡協議会
- 株式会社 悠石
- 神奈川チャリティ・コンサート実行委員会 代表幹事 粟竹 明
- 薬膳健康づくり研究会
- 横浜冷凍 株式会社
- 匿名

善意銀行　物品寄付者
- オーケストラ・アフィア
- 一般社団法人 神奈川県空調衛生工業会
- 千代田化工建設 株式会社
- 横浜DeNAベイスターズ 金城 龍彦

よこはま あいあい基金寄付者
- コーヒーの大学院 ルミエール・ド・パリ（3件）
- 日本國風流詩吟吟舞会 神奈川県地区本部
- 株式会社 まるやま
- 公益財団法人 神奈川霊園
- 宗教法人 真如苑 横浜支部

障害者年記念基金寄付者
- ふれあいチャリティーバザー実行委員会（2件）
- 共に生きるふれあいバザー実行委員会 代表 北田 正（2件）

福祉基金寄付者
- 荏田まめの会
- 大洋建設 株式会社 代表取締役 黒田 憲一
- 若松屋商事 株式会社 松澤 孝郎

賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同・敬称略
平成25年11月1日～平成26年1月31日新規受付分・継続受付分

個人会員
- 杉本 さと
- 星崎 清美
- 利根川 和代
- 佐藤 邦彦
- ほか3件

賛助会員になっていただけませんか

賛助会員は、横浜市社会福祉協議会の行うさまざまな地域福祉推進の“サポーター”として会費による支援を行っていただいています。会員はいつでも、どなたでもなることができます。

【年会費】（個人）一口 2,000円　（団体）一口 10,000円

【お問合せ】横浜市社会福祉協議会　総務部
☎045-201-2096　FAX:045-201-8385

みなさまのご協力をお待ちしています。

福祉Q&A

Q ヨコハマ市民まち普請事業 って なんですか?

A この事業は、市民のみなさんから地域課題の解決に資する施設を整備する提案を募集し、2回の公開コンテストで選考された提案に対して、次年度に最高500万円の整備助成金を交付する横浜市独自の助成事業です。2月2日(日)に平成25年度2次コンテストが開催され、次の3グループの提案が選考されました。

- 「町の防災拠点づくり(自治会館改修)」(神奈川区:松ケ丘自治会)
- 「女性の笑顔で人と人をつなぐ地域応援プロジェクト(活動拠点整備)」(西区:ディアナ横濱)
- 「戸塚に新しい親子の居場所「ひろばカフェ」をつくろう(活動拠点整備)」(戸塚区:特定非営利活動法人 こまちぷらす)

Q 地域療育センター って なんですか?

A 障害やその心配のある子どもを対象に、早期発見と早期療育、各種療育相談、巡回訪問などを行って、子どもとその家族を支援するための専門機関です。医療機関や福祉保健センター、児童相談所、保育園、幼稚園、各種団体や関係機関とも連携をとり、地域の療育拠点としての機能を果たしています。

また、地域療育センターは、診療所(外来)・通園施設(通園)・福祉相談室(巡回・相談)の3つの療育部門で、各種専門スタッフが地域の中で子どもたちや家族が健やかに成長していけるよう、相談・指導・援助にあたっています。

福よこクイズ

たくさんのご応募、お待ちしています!

Q1 たまプラーザ地域ケアプラザを会場に毎週土日、子ども向けに開催されるイベントプログラム「○○○★ひろば」。(ひらがな3文字)

Q2 特集2:第3期 横浜市地域福祉保健計画の愛称「よこはま○○プラン」。計画をより市民に親しみやすいものとしていくための愛称です。(漢字2文字)

Q3 ボラセン情報:TSUTAYA 横浜みなとみらい店が取り組む本による寄付の新しいかたち「○○○○寄付本」。(カタカナ4文字)

前号の「福よこアンケート」には多くの方にご協力いただきました。ありがとうございました。プレゼントの当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

応募方法

はがき・FAXまたはEメールに、Q1～Q3のクイズの答え・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号・「福祉よこはま」の入手法と「福祉よこはま」への感想・意見等(みんなの声に掲載する場合があります)をお書きの上、下記までお送りください。抽選で20名様に「安全ライト」をプレゼントいたします。ご応募お待ちしています!

締め切り:平成26年5月15日(木)消印(はがき)・到着(FAX・Eメール)有効

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
横浜市社会福祉協議会「福よこクイズ」係
FAX:045-201-8385
Eメール:
fukuyoko@yokohamashakyo.jp

・クイズの答え Q1～Q3
・郵便番号・住所
・氏名(ふりがな)・年齢
・電話番号
・「福祉よこはま」の入手法と
・「福祉よこはま」への感想・意見等

福よこクイズがQRコードで便利に応募できます。

QR コードとは?
バーコードリーダーの機能を搭載している携帯電話で、このバーコードを撮影すると、簡単にウェブサイトにアクセスしたり、アドレスを登録できる機能です。

読み取り方
バーコードの利用法は、ご利用の機種によって異なりますが、おおむね以下のとおりです。

①バーコードに対応しているカメラ付き携帯電話で、バーコードリーダーを起動し、バーコードを撮影します。
※バーコードリーダーの起動方法は携帯電話の機種によって異なります。詳しくは、ご利用の携帯電話の取扱説明書をご確認ください。

②バーコードに含まれている情報(ウェブサイトのアドレスなど)が表示されるので、画面の指示に従います。

③メール作成の画面から必要事項を記入して送信してください。

※応募に関わる個人情報については、当選者への発送及び福祉よこはま紙面作成の参考にのみ利用させていただきます。

編集後記

●地域ケアプラザでは地域の特性に合わせてさまざまな活動を行っています。本会ではブログを通じて地域ケアプラザの日常を知っていただく取組を行っています。ぜひご覧ください。 横浜市社協 検索

樋口宗典

福祉よこはま
No.171
2014年3月14日
次号 No.172 2014年6月 発行予定

発行:社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-2090 FAX:045-201-8385
Eメール:fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL:http://www.yokohamashakyo.jp
デザイン:(株)オールスタッフ

広告

全国180万人加入!!

http://www.fukushihoken.co.jp
ふくしの保険 検索

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

Aプランは
死亡1,200万円
入院6,500円、通院4,000円
賠償責任5億円(限度額)
を補償

活動場所と自宅との往復途上の事故も補償

ボランティア活動のための学習会・会議などでの事故も補償

ボランティア自身の食中毒・熱中症・特定感染症もOK

	基本タイプ	天災タイプ
年間保険料 Aプラン	300円	460円
年間保険料 Bプラン	450円	690円

◇天災タイプは基本タイプ+地震・噴火・津波を補償

＊各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、最寄りの社協にお問い合わせください。

ボランティア行事用保険

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

● 行事参加者(主催者〔個人〕を含みます。)全員のケガを補償(往復途上も含みます。) ● 行事主催者の損害賠償責任も補償

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

● 在宅福祉サービス
(公的介護保険対象外サービスを含みます。)
● 地域福祉サービス
● 障害福祉サービス
● 児童福祉サービス
● 障害者地域生活支援事業　など

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

● 送迎・移送サービス利用者を特定したAプラン
● 送迎・移送サービスのための自動車を特定したBプラン

お申込み、お問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667　FAX:03(3581)4763
受付時間:平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます。)

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社
TEL:03(3231)7545

〈43LC12-0163　平成25年2月作成〉